

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートハウスおむすび		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数) 40人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 15日		～ 2024年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○同法人内に、就業継続B型事業所があり、卒業後や放デイ終了後の生活や就労に置いて、イメージが持ちやすい	○年に1回、保護者会と称して、就労継続B型事業所の見学会を保護者や放デイ利用児を対象として実施している ○活動の中でお手伝い活動として、子どもたちに就労継続B型事業所へ行く機会を作っている	○保護者会の実施回数を増やしていき、同法人内以外の就労継続B型事業所の見学会や体験会を実施していく。また、関係事業所を招いての情報交換会を保護者向けに実施していく ○長期休暇や土曜日の就労体験を実施、メンバーの拡充を図る。また、法人以外の就労事業所の体験も検討・実施していく
2	○学習型や体験型(参加型)といったように、活動の幅が広い、低学年からでもできるテーマを掲げて取り組んでいる	○提供の仕方が、月齢や学年によってレベルに則した形で提供している ○集中力が短い場合は、伝える情報量を調整して、端的に捉える工夫を行い、高学年や中高生は、自分たちで考えて取り組める工夫を行っている	○情報の内容の精査を行い、リードフレッシュを行う、常に新しい情報を提供できるように心がける ○前の支援内容も、分かりやすい物であれば活用して、変化を加えて行くことも行う
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○職員の育成において、情報が抜け落ちることが多い	○情報交換のミーティングは実施されているのに、伝達情報として上がらない	○管理職や児発管レベルで分かることもトップダウンで情報を下ろすこと、職員が参画できるように、情報の開示等を実施する ○保護者とのやり取りにしても、全スタッフが内容の共有をできるように「報連相」の体制を見直していく
2	○各種の危機管理マニュアルの提示がなされていない	○事業所にはマニュアルは存在しているが、利用契約時に説明後は特に発信等していない	○有事が起きた場合や状況が変化した場合は、その都度マニュアルを見直し、保護者への説明を行う。また、訓練活動なども実施後はSNS等で発信していく
3	○保護者(外部、関係機関等)への情報発信に偏りがある	○毎月の活動便りには記載されているが、実際行ったイベントや企画、活動の報告の数が出来ているときとそうでない時の差が大きく、しっかりと発信できないことが多い	○活動の記録とは別に事業所が取り組んだこと等は、SNS等で発信していく。勉強会や見学会、保護者会交流会といった様々なイベントにも多くに声かけをして、人集めを計っていくことが重要